

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月31日
函館市立深堀中学校

1 本年度の重点教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成

2 本年度の取組の重点

- ① 確かな学力の向上を図る学習指導
- ② 道徳教育を要とした特別の教科道徳科
- ③ 自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間
- ④ 自主的・実践的態度を育てる特別活動
- ⑤ ふれあい活動を基盤にした ぶれない生徒指導
- ⑥ 自立し、生きる力を培う特別支援教育
- ⑦ 自己管理能力を高め、健康と体力の向上を目指す健康・安全教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適正さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
① 確かな学力の向上を図る学習指導	学習規律の徹底を図ることができたか。	a	教職員間で共通理解、共通実践し、指導の徹底を図る	a	A	
	必要な資質・能力を育む授業改善を図ることができたか。	a	問題解決的な学習の実践を図る。	a	A	
② 道徳教育を要とした特別の教科 道徳科	校内体制の確立と「道徳科」授業の充実を図ることができたか。	a	道徳教育推進教師を中心とした校内体制を確立する。	a	A	
	いじめ防止基本方針に基づいた取組の充実を図ることができたか。	a	生徒会が主体となっていじめ撲滅に向けた取組を行う。	a	A	
③ 自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間	勤労観・職業観を育てるキャリア教育の一環としての進路指導の充実を図ることができたか。	a	職場体験学習を通して、社会に貢献する意欲や意識を育む。	a	A	
	地域の力(人材・教育資源)を活用することができたか。	b	学校運営協議会を中心に地域コーディネータを活用する。	b	B	来年度の動きに期待します
④ 自主的・実践的態度を育てる特別活動	集会活動や学校行事の工夫で自主的・実践的態度を育成することができたか。	a	自己有用感や自己存在感を持たせる集会活動を行う。	a	A	
	生徒主体の奉仕活動の充実を図ることができたか。	b	挨拶運動やボランティア活動を通して、社会貢献の基本的行動を学ぶ。	a	A	もっとPRしてみたら
⑤ ふれあい活動を基盤にしたぶれない生徒指導	全教師が、共通理解・協働体制に基づいて適切に指導・援助することができたか。	a	自己有用感や自己存在感を持たせる集会活動を行う。	a	A	
	生徒理解のための努力がなされ、日常生活の中で相談活動を積極的に行われることができたか。	a	いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期解決に努める。	a	A	
⑥ 自立し、生きる力を培う特別支援教育	生徒の特性に応じた適切な支援の充実を図ることができたか。	a	客観的な看取りや日常の観察により生徒の状況をつぶさに捉える。	a	A	
	校内支援体制の確立を図ることができたか。	b	専門家や関係機関を積極的に活用し専門性を高める。	a	A	
⑦ 自己管理能力を高め、健康と体力の向上を目指す健康・安全教育	性教育の計画的・系統的な指導体制の確立を図ることができたか。	a	性教育集会を行うことができた。	a	A	
	規則正しい生活習慣に基づいた健康教育の増進を行うことができたか。	a	生活改善に向けた取組を家庭と連携して行う。	a	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。